

**CASBEE 広島 2016年版**  
**カルビー株式会社 広島新工場新築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.2</b>	0.15		-		<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		床・天井に吸音材(タイルカーペット・ロックウール吸音板)		<b>4.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.7</b>	0.35		-		<b>2.7</b>
2.1 室温制御				<b>3.3</b>	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		空調ゾーニングがされており冷暖房の選択可能		4.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.9</b>	0.25		-		<b>3.9</b>
3.1 昼光利用				<b>3.6</b>	0.30		-		
1 昼光率		昼光率 2.01%		4.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 昼光制御		ブラインド+庇		4.0	1.00		-		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15		-		
3.4 照明制御		照明状態監視機能有 スケジュール運転可能		<b>5.0</b>	0.25		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.9</b>	0.25		-		<b>3.9</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面に採用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				<b>3.6</b>	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は汚染源のない方で排気口と6m離れている		5.0	0.33		-		
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>					<b>0.30</b>		-		<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.8</b>	0.40		-		<b>3.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.6</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性		一人当たりの執務スペースが12㎡以上		5.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応		OA機器用のコンセント容量が50VA/㎡以上 フロア間通信可能		5.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				1.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高2.9m以上で窓が設けられている		5.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上の休憩室を設置		4.0	0.33		-		
3 内装計画				3.0	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		取り組みにおいて該当する項目数が標準以上である		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.5</b>	0.30		-		<b>3.5</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.8</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.2</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウムダクトなど長寿命化を図っている		4.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用しEは不使用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>3.2</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法		重要機器は耐震クラスAとする		4.0	0.20		-		
5 通信・情報設備		高感度情報通信設備 精密機械の地下空間への設置を避けている		4.0	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.4</b>	0.30	-	-	<b>4.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.5mm以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.0432	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック方式とし維持管理がしやすい	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラック方式とし維持管理がしやすい	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	仮設スペースの確保 更新・修繕時に建物機能を維持できる状況	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.40	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			-	-	-	-	
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>4.0</b>	0.13	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>3.4</b>	0.63	-	-	<b>3.4</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
節水便器 節水水栓を使用している							
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
-							
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			5.0	0.20	-	-	
再生クラッシュラン 塩ビシート ロックウール化粧吸音板							
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			5.0	0.20	-	-	
躯体と仕上げ材が容易に分別可能 LGS OAフロアの採用							
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>4.3</b>	0.20	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
ビニル床接着剤							
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	GWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が1未満)を用いた断熱材	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
可能な限りCO2の排出量を低減							
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>4.0</b>	0.25	-	-	
排出濃度が基準値の90%以下に抑えられている							
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースの確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	室内および室外にゴミの多種分別回収可能なストックスペース有	4.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策が「ライティングリスト」の過半を満たし広告照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	